

特別開設科目授業内容

1	細胞生物学セミナー	責任者	武内恒成
<p>細胞生物学，および神経科学の諸分野から重要なテーマを選び講述する。          随時，内外の先端的な研究者を招き，セミナーを開催する。          大学院生が，組織・細胞のイメージング画像データや，次世代遺伝子解析システム・空間トランスクリプトーム解析（RNA-seq.やGWAS）などの解析や，意味付け，データマイニングの手法についても理解できることを目標とする。</p>			
2	解剖学セミナー	責任者	内藤宗和
<p>各自が興味を持つ領域，あるいは臨床上問題となる領域について，解剖を行い理解を深める。</p>			
3	生理学セミナー	責任者	佐藤元彦
<p>教授，特別講師，教室員の指導で下記のテーマについて解説講義と文献抄読，実験を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞内情報伝達機構</li> <li>2. 循環調節機構</li> <li>3. 血管リモデリング制御機構</li> <li>4. 疾病に関連するシグナル異常</li> </ol>			
4	生化学セミナー	責任者	細川好孝
<p>発癌は多段階な遺伝子異常の蓄積によるものであることが明らかにされつつある。本セミナーでは，造血器腫瘍から固形癌まで広範に亘り，これまで明らかとなっている癌化の分子機構についてセミナーを行う。</p>			

5	薬理学セミナー	責任者	丸山健太
<p>中枢神経と末梢神経の相互連関ならびに末梢神経系による生体防御システムに関する原著論文を精読し，討論を行う。</p>			
6	分子病理学セミナー	責任者	笠井謙次
<p>人体病理及び分子病理の最新知見に関する文献抄読や検討会を開催する。また随時専門家を招き，セミナーを開催する。</p>			
7	免疫学セミナー	責任者	高村祥子
<p>免疫学研究の基礎的知識や方法を習得するために，教授や教室員の指導の下実験を行い，結果について考察する。結果はまとめて教室内で発表し，多方面からの意見や提案を受け検討や討論を繰り返すことで考え方やまとめ方の技能を習得していく。</p>			
8	健康増進・疾病予防セミナー	責任者	鈴木孝太
<p>現在，特に社会的に問題となっている健康問題を取り上げ，関連する物理的，生物的，化学的な外的要因のみならず，生活習慣や社会経済的状況といった，広義の環境要因について，その検討方法や評価方法について学ぶ目的でセミナーを開催する。その上で，各自の研究内容についても多角的な視点から検討し，討議することで，一層深い成果を上げることを目指す。</p>			

9	臨床疫学セミナー	責任者	菱田朝陽
<p>疫学の方法論を臨床の場に取り入れた，Evidence-based Medicine (EBM) について実習を行う。いくつかの具体的な臨床シナリオに基づき，臨床疑問の定式化→検索→批判的吟味→自分の患者への適用の4ステップを行う。自分のもつ臨床疑問を自力で解決できるようになることを目標とする。</p>			
10	情報科学セミナー	責任者	菱田朝陽
<p>医学研究を行う際に必要となる統計ソフトの使用法について，実際に統計ソフトを用いて実習する。 大学院生自身が自分の持つデータを自力で解析できるようになることを目標とする。</p>			
11	法医学セミナー	責任者	妹尾洋
<p>講座所属教員と合同で，あるいは大学院学生単独で下記の項目についてセミナーを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 法中毒学 睡眠薬中毒，農薬中毒，その他</li> <li>2 アルコールに関する法医学</li> <li>3 医療関連死，異状死</li> </ol>			
12	認知症の臨床病理セミナー	責任者	岩崎靖
<p>認知症の臨床所見と神経病理学的所見を検討し，中枢神経系の老化と，認知症の病態との関連についてセミナーを開催する。 最新の論文の抄読会，神経病理学教科書の輪読会，臨床神経病理症例検討会，研究プロジェクトミーティングを通して，特に非アルツハイマー型変性認知症の病態解明の研究を発展させる。</p>			

13	神経病態・幹細胞生物学セミナー	責任者	岡田洋平
<p>幹細胞生物学，発生学，神経科学，神経病態学，創薬研究等の各分野の研究者を招聘しセミナーを開催する。また，学内外の様々な研究者とのディスカッションを通して，研究課題についての議論を深める。</p>			
14	分子医科学セミナー	責任者	[細川好孝]
<p>臓器・組織の形態形成，維持機構，各種病態における形態・機能の破綻機構を分子生物学的な面から解説する。 また，随時専門家を招き，セミナーを開催する。</p>			
15	消化管セミナー	責任者	春日井邦夫
<p>消化管疾患診療における最近の臨床面，研究面のトピックスや最新の消化器内視鏡診断・治療についてセミナーを行う。</p>			
16	肝・胆・膵セミナー	責任者	伊藤清顕
<p>肝胆膵疾患診療における最近の臨床面，研究面のトピックスや最新の消化器内視鏡診断・治療についてセミナーを行う。</p>			

17	循環器学セミナー	責任者	天野哲也
<p>循環器学の基礎並びに臨床に関する最近の重要テーマを選び、文献の検討及び討論を行う。また、随時学内外の研究者を招き、最近の知見について講演討論会を開催する。</p>			
18	呼吸器疾患病態セミナー	責任者	伊藤理
<p>呼吸器疾患特に間質性肺炎、気管支喘息、肺胞蛋白症など、外因あるいは内因に対する過剰反応的性格の強い疾患において、病態の中核をなす蛋白とその遺伝子発現の動向を臨床材料を用いて解析した結果や、各疾患のフェノタイプあるいはエンドタイプとの関連を講述する。</p> <p>また肺癌について抗腫瘍免疫を阻害する分子の発現と、治療後の長期予後との関連を調査した結果を講述する。</p>			
19	内分泌・代謝学 臨床遺伝セミナー	責任者	[高見昭良]
<p>内分泌代謝疾患の病態から臨床遺伝まで、網羅的に理解することを目的とする。液性調整を主として、成長発育、循環動態、体温代謝調整、骨粗鬆症などについて具体的に提示し、その病態の機序を解明する方法を検討する。</p> <p>興味ある個々の症例について、臨床から研究的解析まで実施できる思考力を啓発する。随時、学外講師にご講演頂く。</p>			
20	糖尿病学セミナー	責任者	神谷英紀
<p>糖尿病研究の第一人者を招聘し講演していただく。</p>			

2 1	神経疾患先行研究セミナー	責任者	道 勇 学
<p>研究シードあるいはbrainstormingのためのtipを得る目的で，臨床，基礎を問わず神経疾患に関連する最新の学術知見をセミナー形式で紹介する。必要に応じて学外研究者を招聘する。</p>			
2 2	血液内科大学院生セミナー	責任者	高 見 昭 良
<p>血液学のトピックを講演してもらう。</p>			
2 3	精神医学研究セミナー	責任者	宮 田 淳
<p>客観的な検査がほとんど無いという精神疾患の現状，操作的診断基準の意義と限界，現在の様々な研究領域とその成果を概観する。また文献の批判的吟味を通して今後の研究のための指針を議論する。</p>			
2 4	小児神経学セミナー	責任者	奥 村 彰 久
<p>小児の神経疾患に関する臨床研究および基礎研究について，専門家のセミナーを開設する。また，遺伝学的研究・神経生理学的研究・神経画像解析研究などの手法を学ぶとともに，現在得られている知見について討論を行う。</p>			

25	消化器外科学セミナー	責任者	佐野 力
<p>消化器外科学（特に胃，大腸，肝臓及び門脈，胆道及び膵，脾の外科）についてセミナーを行う。</p>			
26	循環器外科学セミナー	責任者	松山 克彦
<p>循環器疾患（心臓・大血管疾患）の外科治療の適応および手技・術前後の管理・術後成績および補助循環手段について討議を行う。</p>			
27	血管外科学セミナー	責任者	児玉 章朗
<p>重症下肢虚血において，下肢血行再建（バイパス／血管内治療）による虚血部局所の血行動態変化，創傷治療可能性を無侵襲血管診断法から評価し，検討する。</p>			
28	乳腺内分泌外科学セミナー	責任者	中野 正吾
<p>乳腺内分泌外科学について最近のtopics（分子標的治療，遺伝性乳癌，センチネルリンパ節における微小転移の臨床的意義など）を選びセミナーを開催する。</p>			

29	腎移植外科学セミナー	責任者	小林孝彰
腎移植領域に必要な移植免疫に関する最近の臨床面・研究面のトピックスや最新の診断・治療法についてセミナーを行う。			
30	脳神経外科学セミナー	責任者	[高橋伸典]
中枢及び末梢神経系疾患に関し基礎、臨床の各方面にわたり専門家のセミナーを開催する。その中で、特に外科的に重要なテーマを選んで手術手技とその適応について文献学的検討も含めて討論を行う。			
31	脳血管内治療実践セミナー	責任者	[高橋伸典]
血管内治療手技を実際にシミュレーターおよびシリコンモデルを用いて行ってもらおう。ガイドカテーテルの誘導、脳血管へのマイクロカテーテリゼーション、コイル塞栓術、ステント留置術などを通じて、脳血管内治療を体験実習し、実治療における困難性やリスクを理解する。			
32	整形外科学セミナー	責任者	高橋伸典
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 関節のバイオメカニクスおよび人工関節のメカニクスについて講述する。</li> <li>2 スポーツ障害の診断と新しい治療法について討論を行う。</li> <li>3 骨軟部腫瘍の新しい治療法についての考え方を文献的に検討する。</li> <li>4 関節軟骨及び半月板の治療及び再生に関して検討する。</li> <li>5 関節リウマチの病態と治療について検討する。</li> </ol>			



33	皮膚感染症セミナー	責任者	渡邊大輔
<p>皮膚における感染症（細菌・真菌・ウイルスなど）の診断には，その原因微生物の同定が必要不可欠であり，そのために菌学的検索はむろんのこと，免疫学的検索も重要な位置をしめる。それらの検査手技の実際・データ処理について述べ，さらに文献的検討と討論を行う。</p>			
34	泌尿器科学セミナー	責任者	佐々直人
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 尿路系腫瘍，尿路感染症に関し基礎，臨床各方面より専門家のセミナーを開催する。</li> <li>2 尿路結石症，排尿機構など重要なテーマを選んで，文献的検討と討論を行う。</li> </ol>			
35	産婦人科学セミナー	責任者	渡辺員支
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 産科疾患について，母体，胎児の管理方法の臨床的セミナーを行う。</li> <li>2 性器癌の診断法と治療法の基礎的ならびに臨床的セミナーを行う。</li> </ol>			
36	眼科学セミナー	責任者	瓶井資弘
<p>眼科学の諸分野から全身疾患との関連において重要なテーマを選び講述する。随時内外の研究者を招き，セミナーを開催する。</p> <p>また，教員，大学院学生全員参加の下での一般眼科学の基本的問題についての討論を行う。</p>			

37	臨床頭頸部外科セミナー	責任者	藤本保志
<p>1 頭頸部癌治療の最先端医療についてセミナーを行う。</p> <p>2 嚥下障害の基本的診断法から専門的診断・解析法についてセミナーを行う</p>			
38	総合画像診断セミナー	責任者	鈴木耕次郎
<p>各種の画像診断法（X線撮影，CT，MRI，シンチグラフィ，超音波など）の種々の疾患の診断における特徴と適応，および病理所見との対比などについて検討と討論を行う。</p>			
39	放射線治療セミナー	責任者	鈴木耕次郎
<p>がん治療における放射線治療の役割や適応等について，最新の知見も基づいてトピックスを学ぶ。また学内で開催されている「放射線治療カンファレンス」，「キヤンサーボード」，「たちばな放射線治療講演会」なども活用する。</p>			
40	麻酔科学セミナー	責任者	[道勇学]
<p>痛みと侵襲制御に関する最近のトピックスを取り上げてセミナーを行う。</p>			

4 1	救急集中治療医学セミナー	責任者	渡 邊 栄 三
<p>救急集中治療医学，蘇生・集中治療医学に関連した侵襲学全般のトランスレーショナル・リサーチの考え方を学び，それらを実践に繋がるセミナーを行う。</p>			
4 2	嫌気性菌感染症セミナー	責任者	三 嶋 廣 繁
<p>破傷風，ガス壊疽，ボツリヌス症など毒素産生性の嫌気性菌による外因性感染症および主に術後に認められる嫌気性菌と通性菌が相乗的に病原性を発揮する内因性複数菌感染症，芽胞を有する嫌気性菌による医療関連感染などの嫌気性菌が関与する多種多様の感染症の診断，治療，予防に関する講義，演習，実験研究を行う。腸内細菌叢と各種疾患の関係についても研究する。</p>			
4 3	病理診断学セミナー	責任者	都 築 豊 徳
<p>病理診断は腫瘍学の基本項目であり，その行為は単なる診断に留まらず，手術方法，薬剤選択，放射線治療方針の決定に重要な役割を果たす。更には，その治療効果の判定から，その後の治療方針の参考材料となる。</p> <p>本講ではWHO分類に基づく病理診断の意義，治療方針を決定させる病理所見を交えて解説を行う。更には遺伝子診断及び治療を行う上での注意点についても解説を行う。</p>			
4 4	疼痛医学セミナー	責任者	牛 田 享 宏
<p>侵害受容性疼痛，神経障害性疼痛，痛覚変調性疼痛など，さまざまな痛みの発生機序や慢性化・難治化の機序及びその治療法などについて，文献の抄読や研究課題ごとに議論を行い，実践的に急性痛対応，慢性疼痛の分析対応法について学ぶ。</p>			

45	輸血・細胞治療医学セミナー	責任者	中山 享 之
<p>輸血医学並びに造血幹細胞移植を中心とした細胞治療医学について、セミナーを行う。</p>			
46	がん治療セミナー	責任者	久 保 昭 仁
<p>がん化学療法，分子標的療法，免疫療法など最新のがん治療のトピックについて学ぶ。学内で開催されている「ゲノム医療エキスパートパネル」，「がんボード」なども活用する。</p>			
47	がんの悪液質・サルコペニアセミナー	責任者	森 直 治
<p>悪液質は，がんをはじめとする慢性消耗性疾患に伴う炎症を背景としてサルコペニアを引き起こす多因子症候群で，炎症を伴う慢性疾患関連性低栄養と同義である。また，がん患者におけるサルコペニアは，疾患によって引き起こされる二次性サルコペニアとして高頻度であり，悪液質そのものであると考えられている。悪液質やサルコペニアに共通する特徴，すなわち骨格筋量や筋力の低下は，抗がん治療の副作用の悪化，生活の質の低下，そして生命予後の悪化といった医療アウトカムとの低下と関連していることが多くの研究で報告されている。したがって，骨格筋量や体蛋白量の適切な維持は，がん医療における重要な課題の一つである。本セミナーでは，がんに伴う悪液質とサルコペニアの病態の理解と，それに対する対応について詳しく解説する。</p>			